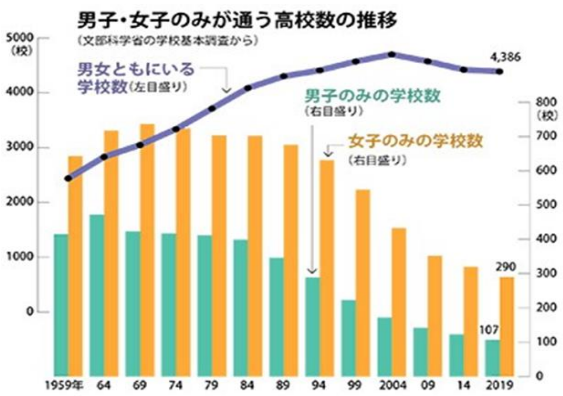
進路だより
78th PRIDE
松戸市立第三中学校
令和８年１０月１４日　No.38

男子校、女子校という選択．．．。

朝日新聞 EduA から　一部引用



全国に高校は約４８００校ありますが、そのうち大半は「共学校」で、「男女別学」の学校は１割に満たないのが現状です。「男子校」「女子校」の多くは私立高校で、公立高校では東日本を中心にわずかに残るのみだそうです。男女雇用機会均等法や男女共同参画社会基本法の制定に象徴される社会意識の変化や、少子化の中で受験生や生徒を確保したいという学校経営的要素から、１９９０年代以降、男女別学高校は減少することになります。かつて男子校だった市川高校、千葉商科大付属高校や、女子校だった昭和学院高校、我孫子二階堂高校等、県内でも多くの学校が「共学化」し、県内の男子高は皆無となりました。ちょうどこの頃、千葉県初の女性知事となった堂本暁子さんも県立女子高の共学化を後押しし、県立松戸高校や野田高校（現野田中央高校）が共学となりました。今や千葉女子高校、木更津東高校の２校が残るのみです。最近では聖徳大附属女子高が共学化し「光英 VERITAS 高校」として誕生しました。

海外では男女別学に注目！？

海外ではイギリスを始め様々な国で「男女別学」と「共学」を比較し、成績や素行、人格形成面にどのような違いが生まれるか、という調査が行われています。その結果から男女別学のさまざまな効果が認められました。

◎共学よりも男女別学教育を受けた生徒の方が学力は高い
（2000 年／オーストラリア／教育研究機関 ACER、　2002 年／イギリス／国立教育調査財団）
◎男女の学力差を埋めつつ、それぞれの能力を伸ばすには男女別学の教育が最適である
（2005 年／イギリス／ケンブリッジ大学）
◎男女による成績の差は、男女別学の方が生まれないということを裏付ける結果を得た
（2009 年／オーストラリア／「ｵｰｽﾄﾗﾘｱﾝ･ｼﾞｬｰﾅﾙ･ｵﾌﾞ･ｴﾃﾞｭｹｰｼｮﾝ」シェリー・ギブ氏）
◎高校 1217 校の言語、数理、外国語の点数を比較したところ、男女別学校の方が共学校より、平均点が 12 点から 14 点ほど高いデータが出た（「朝鮮日報」2009 年 11 月 8 日付より）

このような機運の中、米国では 2006 年法改正が行われ、公立学校の男女別学が認められました。男女別学のクラス編成は 2002 年の 10 数校から 2012 年には 390 校と大幅に増加しています。

男子校の良さとは？

- 一般的に精神的な成長の早い女子生徒に臆することなく、男子だけでリーダーシップや組織運営力を養える。
- 「力仕事は男子」「食やお金に関することは女子」といった性別役割分担の偏りがなく、どんな役割でも自分たちで成し遂げようという意識を持つことができる。
- 男子は「やる気スイッチ」が入ると、決めたことに向かう力がとても強い。異性の目を気にせず、自分たちのペースで成長できている。
- 男子校は、自己分析するのに適した環境だといえる。自分と同じような「他人」と触れ合うことが、より深く「自分」を理解することにつながる。女子がいない環境では、見た目ばかりにこだわったり、格好良さを求めたりするのではなく、中身を含めて個性を伸ばすことができる。

女子校の良さとは？

- 「男子に頼む」という発想がなく、何ごとも自分たちで動くため、常に自分の能力を発見するチャンスがある。
- 女子だけですべてのことを成し遂げて行く中で、協調性や創意工夫する力が育まれる。
- 「軽やかなフットワーク」と「圧巻の実行力」がある。
- 行事でやる気がない男子がいると「もめごと」になるケースがあるが、女子だけだと皆が積極的に参加しているので、連帯感、団結感が強くなる。
- 性差を意識することなく「ありのまま」でいられるため、常にのびのびしている。
  お互いが素の自分を出せ、本音で語り合える中で、気の合う友人が見つけやすくなる。
- 異性問題によるトラブルやいじめはほぼ無い。 男子によるからかいやいじめが起きないことも利点。
- 常に女性の視点で考えている女子校の先生は、女性の特性に応じた効果的な指導（女子が得意とされる「言語的能力」をさらに伸ばしたり、苦手であることが多い「数学的な能力」の伸ばし方に配慮する等々）が得意。悩み事も安心して相談できる。
- 共学校、男子校に比べて、圧倒的にきれいな環境が保たれやすい。
- 男子校や共学校ではあまり見られない「マナー」や「礼儀作法」などの授業が行われる。

共学校の良さとは？

- 「実社会」に近い環境なので、異性との関わり方や接し方や社会性が身につく。コミュニケーションスキルを伸ばすことができる。
- 同世代の異性の考え、さまざまな価値観に触れる機会も多いため、社会に出てからの「適応性」という面での成長も期待できる。
- 異性の目を意識して、振る舞いが自制される。
- 女子がコツコツ勉強を積み上げているのを見て、それまで遊んでいた男子が危機感を抱いたり、逆に受験間際になって急に成績を伸ばす男子の様子に女子が刺激を受けてさらに勉強するなど、互いに刺激し合い、共に伸びていくケースが多く見られる。

昨年の面談で思ったこと．．．

昨年の二者面談、三者面談でも、「女子校はちょっと…。」と、はじめから「対象外」としている生徒を見かけましたが、上記のように「共学校にはない魅力」がたくさんあるのも事実です。「女子校はいじめが多いのでは？」という話をする人がいますが、女子校に進学した三中卒業生に話を聞く限り、「いじめは少なく、むしろ仲が良い」と口をそろえて言います。

常に伝えていることですが、「将来のなりたい『自分像』を踏まえ、今どんな選択をすれば良いか」を考えて志望校を選ぶことが大切です。学校見学や説明会に参加して、その高校に通う生徒の様子、学校の雰囲気をよく観察してみましょう。そうすることで、学校の良し悪しや自分にとっての向き不向きがおのずと見えてくるものです。近所にその高校に通う先輩がいたら、積極的に話を聞いてみるのもオススメです。「どうしても共学校がいい」とか、「女子校は嫌」というような固定観念をなくして、広い視野で高校を選ぶことが大切です。「共学じゃなきゃ嫌だ」と思っていたけれど、「女子校の雰囲気がとてもよかった！」ということも結構あるものです。

貴重な３年間を過ごす場所です。イメージだけで選ぶことなく、学校見学をして、説明会を聞いて、学校の雰囲気を知って、納得して進学先を選ぶようにしたいものです。